

大学合格体験記

2022 年度生

★ 名古屋大学 医学部 医学科 (安積高 22 卒)

「1年後のために」

現役時は東京大学理科一類を受験、不合格になりましたが駿優郡山校で一浪し、紆余曲折を経て医学部に合格しました。浪人生活中に私が意識していたことを少しだけお伝えします。

私が一番重要だと思うことは自習のペースの確立です。予備校は毎週時間割が固定されているので、4月中には勝手にわかるとおもいます。予備校の授業は当然学校の授業よりはわかりやすく、勉強になりますが、それを実戦での得点に繋げたり、わからなかった部分の行間を埋めたりするのは全て自習の時間です。自分はどのくらいの時間集中できるのか、どこで勉強するのがいいのかなどを確認しておきましょう。郡山市内だと、清水台公民館、市民プラザ、中央図書館などは環境が整っていたのでおすすめです。また自習中は必ずスマートフォンをシャットダウンしましょう。触れる状態にしておくとも必ず触りたくなるものです。新潮新書のアンデシュ・ハイセン著「スマホ脳」を読むと二度とスマートフォンを触りたくなくなると思います(笑)

次に勉強していない時間の話をします。僕は休憩を取るな、休憩中にスマホを触るなどとは言いません。そんなことを言っても絶対守れないからです。しかし、スマホを触っている時間なのを有効活用することはできます。例えば今はTed talks やBBCが無料で聴けるので、これでリスニングの勉強ができます。自転車に乗っているときには化学や地歴などの暗記事項を1から思いだして思考の整理ができます。YouTubeを見ながら出てきた日本語を英訳してみる、なんていう遊びも学力向上に繋がります。とにかく日常生活の空き時間と勉強を関連づけることを意識してみましょう。

長々と書いた文章を読んでいただきありがとうございます。1年後みなさんが桜の下で笑えることを祈っています。

PS:名古屋大学医学部の隣には鶴舞公園という花見スポットがあるのですが3/31現在、満開でとても綺麗ですよ！

★ 金沢大学 理工学類 (白河高 22 卒)

「人は必ず温かなつながりの中にいる」

一年、浪人の期間を通して学んだことが、勉強して学んだこと以外にも多くあります。最初、受験に失敗して何もかも信じられなく、自分のことでさえ疑心暗鬼になっていました。

私は、宅浪でやりたいと両親に言いましたが、自分の性格を察して、予備校に入れさせてもらいました。今となっては、それが正解だったと言わざるを得ません。両親がいなければ今の自分はいないと思います。

学校に通い始めてからも、自分が内気になっているのを、担任の先生や教科を担当している先生、事務の方が気遣って下さっていたように思います。先生に質問をしに行った時もどんな質問でさえ、優しく答えてくださったり、入試直前で忙しい時も、添削などの直しやアドバイスを丁寧に解説して下さいました。1人で自習室にいるときも見回りに来て下さったり、授業の域を越えて、面倒を見て下さったと感じています。授業自体もただ解説するだけでなく、生徒と一緒に授業をすることで、とても分かりやすかったです。一人で受験に臨んでいると思っていた自分は大間違いでした。夏になっても点数が思うように上がらなかったのそのせいだと思います。応援してくれる人がいるということ、一番単純かもしれないけれど、大事なものにいつまで経っても気付けなかった自分は、大馬鹿者です。医学部などのようなたいそうな成績ではないけれど、一緒になって喜んでくれた先生や事務の方々や友人、両親だけでなく、親戚の人には感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました！

★ 埼玉大学 教育学部 (安積高 22 卒)

「3年間の反省と浪人生活1年」

私は高校に入学してすぐに勉強の難しさに挫折してしまい、3年間引きずり続けたタイプの人でした。特に数学、英語が全然分からなくなってしまい、現役時代の共通テストでも足を引っ張る科目でした。駿優には家から通えるという理由で通い始めましたが、駿優で1年間勉強できて良かったと思っています。最初に全て基礎から学べたため基礎がしっかりしていなかった自分にとってはとても有り難かったです。後期になって過去問に入るまでは駿優で配られたテキストをひたすら解いていましたが自分にはあっていたと思っています。また、アドバイスのことはあまり言えませんが大切なことは生活リズムだなと思っています。高校時代の生活リズムは本当にひどく、授業も疎かにしていましたが、予備校で授業を大切にしようようになってから効果がかなりあり、後悔した覚えがあります。

★ 福島大学 農学群 (郡山高 22 卒)

「浪人した一年間で学んだこと」

昨年の3月に浪人が決まり、駿優予備校に初めて足を運んだときは、これからの生活に不安でいっぱいでした。高校の友人や同級生のほとんどが進学を決めており、当時は「友人達と1年差がついてしまう」や「自分が浪人してしまうなんて」等の浪人することに対して悪いイメージしか持っていませんでした。ですが、駿優予備校で学んだ1年間はこれから何十年もある人生の中で重要な1年になったと思います。

駿優予備校での授業は高校の授業では学ぶことのできないような知識をたくさん学ぶことができました。数学では今まで知らなかった問題を解くコツや時短テクニック等を、英語では同じような意味の単語のニュアンス的な意味の違い等を、国語では共通テスト形式の問題の解き方の定型等を、化学や生物では漠然とした内容を具体的に理解したり、計算テクニック等を学んだりすることができました。月に1,2回ある模試の結果が少しずつ上がって行って、ちよつとずつではあるけれども受験科目の総合的な得点力がついてきていることを実感することができました。共通テスト本番が近づいてきて、予想問題や対策問題の理系科目においては安定的に70点以上を取ることができるようになってきていました。共通テスト直前に受けたK-パックテストでは昨年の共通テストの結果と比べて120点程点数を上げることができていました。私は共通テスト本試験の直前に新型コロナウイルスに感染してしまい、追試験の方を受験したのですが、K-パックテストとほぼ同じくらいの点数を取ることができ、滑り止めで共通テスト利用での受験をした私立の大学も合格することができました。また、国公立大学には二次試験があり、その勉強もしっかり取り組み、第1志望の福島大学農学群食農学類に無事合格することができました。このような結果を得ることが出来たのは、自分自身の努力だけではなく、家族やとても優しく丁寧に教えてくださる駿優予備校の先生方のサポートのお陰です。この1年間、辛くて投げ出しそうになったことも何回もあるけれど、踏ん張って頑張ってきた甲斐があったと思います。最初は不安で、したくもなかった浪人生活でしたが、浪人したことでしか経験し得ないことや学び得ないことをたくさん得ることができたし、今となっては浪人して良かったと思える程にいい経験をしたと思います。

駿優予備校で経験したことを大切にしつつ、これからの大学生活を楽しみ、これからの人生を華のあるものにして行きたいと思います。駿優予備校の先生方には感謝してもしきれません。本当にこの濃い1年間ありがとうございました。

★福島大学 人文社会学群 (安積高 22 卒)

「合格への道のり」

1年前の私は受験を舐めていました。中身のある勉強をしていなかったのにやった気になり、一向に上がらない模試の成績からは目を背け、そして共通テスト本番に挑みました。もちろん結果は不合格。しかし、合格発表に自分の番号がなかったにも関わらず、あまり悔しさ感じませんでした。勉強の足りなさや己の甘さを自覚していたからです。そんな意気地無しで情けない自分を変えたくて私は駿優に入学しました。

駿優予備校は非常に良い所です。授業は分かりやすく、丁寧で、分からない問題は質問しやすい。また、担任の先生が付くので色々な相談も出来ます。薄っぺらな勉強しかしていなかった現役とは中身が段違いでした。1人で勉強していたら身につかなかったであろう事がたくさんあります。駿優の先生方のおかげで濃い1年を過ごす事が出来ました。

私はこの浪人期間を通じて大きく成長できたと思います。辛い事があっても投げ出さず、目標に向かって継続し続ける事が出来たのは大きな自信になりました。

最後に1年間支えてくれた全ての人に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

★会津大学 コンピュータ理工(日大東北高 22 卒)

「やりきった1年」

僕は現役時代の結果に満足できなかったのが浪人しました。初めの成績は微妙でしたが先生や友達にも支えられ、私立6回落ち、共テD判定で迎えた二次試験でしたが合格することができました。大切なのは最後まで予備校(自習室)に通い続けて弱音を吐いてもいいけど諦めずに努力すること、授業はサボらず出席して先生に指されること、無理にとは言いませんが信頼出来る友達、自分より上の学力をもつ友達をつくることの3つです。二次試験のアドバイスとしては予備校では二次力がものすごく身につくのでほんとになにがあるかわからないです！あと、何校も受けたり同じところを何回も受けることは場慣れするのにとてもいいのでおすすめです！1年はすぐに過ぎ去ってしまうので時間を無駄なく有意義に使って頑張ってください！追記:後期日程の私立も無事受かったので諦めず頑張っていれば報われます！！

★酪農学園大学 獣医学群 (会津学鳳高 22 卒)

「使えるものは全部使おう」

この1年間私自身がやって良かったと思う事を書き連ねていきます。何かの役に立てて貰えれば幸いです。

まず、タイトルの通り使えるものを出来る限り利用できて良かったと思います。その中でも特に役立ったと感じる3つについて書きたいと思います。1つ目は環境です。例えば駿優の自習室に最後まで残って自習したり、駿優が早く閉まるような日は公民館に行って学習室を利用したりなど、勉強に適している環境を使うことは勉強に集中しやすくとても捗ったように感じました。2つ目は先生です。分からないことはとことん質問し、不安なことは全部相談するというように、あらゆる事を聞き自分の道標とすることで、自分の足りていない部分やこの先の予定について明確にする事ができ、雑念を取り払うことが出来たように思います。3つ目は友人です。勉強について聞いたり、一緒に勉強しようと言ってお互いに切磋琢磨するのは勿論のこと、メンタル的に辛くなった時にしょうもない話をしたり愚痴をぶついたりしてお互いに励まし合えるような友人は最後の最後まで心の支えになるため、良い意味で最後まで利用して相手と一緒に自分も心が折れずに高めることが出来たように感じます。

次に、勉強量は増やしつつも自分のペースを常に守ることが出来たのはかなり良かったと思いました。というのも、駿優に入ってすぐは受験に落ちた悔しさやこれから頑張るぞという意気込みで無茶なスケジュールを組みたくなります。しかし、そのスケジュールで1年間つまづく事無く走り切れるでしょうか？そもそも、高校3年の時にある程度自分の勉強のペースや生活リズムが確立されている人も居るのではないのでしょうか。そういった人達が自分のペースを無理に崩して無茶をしたとして、尻すぼみになるのは明らかかなはずです。(自分はその無茶なペースでもできる！という自信があるなら話は別ですが…)そのため、自分のペースを基本にしつつそのペースに授業や予習復習を組み込むことで、私自身は1年間無理しすぎずに走り切ることが出来たように感じ、ペースを崩さなくて良かったなと思います。

最後に、適度に息抜きをして良かったと思います。1度失敗しているから焦るという気持ちはわかりますが、メリハリはしっかりとつけた方が良いです。例えば、自習しているがどうしても眠くて集中できないなら15分だけ仮眠をとってその分起きたら頑張る、苦手な教科やりすぎてもう嫌になってきたのならば得意な教科の簡単な問題を何問か解いてから再開する、何やってもぼーっとしてしまい手につかないなら無理せず休んでからその穴を埋める、と言うようにどうしても良くない時は落ち着いて休む方が良いと思います。ただし、闇雲に勉強を忘れて遊んだり休んだりせず、あくまでやる時はやるが休むべき時は一旦落ち着いて休むというメリハリをつけて息抜きをしてください。

拙い文章でしたがここまで長々と読んでくださりありがとうございました。この文章が何かの役に立てば幸いです。そして皆様の花が開くことを祈っております。

★東北福祉大学 教育 (あさか開成高 22 卒)

「闘」

僕は、この1年間で様々なことを学ぶことが出来たと思う。勉強のことだけでなく、どの程度自分に厳しくできるか、どのように勉強するのが自分にとって最適かなど、学ぶところが沢山あった。

先生方は分からない所があれば丁寧に説明してくれたり、記憶に残りやすい授業を提供してくれたり、僕にとって居心地のいい修行の場になったと思う。

また、自習室もみんなやる気のある人ばかりであったので、自然と自分もやる気になり長時間の勉強も容易にできた。

担任の先生もいて、進路についての相談やその他にも日常にある不安などにも快く耳を傾けてくれた。そのおかげで、精神的にもゆとりが出てきて最後まで駆け抜けることが出来たと自負している。

もし、予備校どこにしようか迷っている人がいたら、駿優予備校郡山校をおすすめしたい！

★多摩美術大学 美術学部 (県立福島高 22 卒)

「前向きになるには」

あなた達は、生きる上で(勿論予備校生活でも)大切な事といえば何だと思うだろうか？自分なりに答えを出すとすれば、前向きでいる事、そしてそうなる為の考え方を持つ事だ。

駿優に通い始めた頃の自分は、志望校に合格できなかった事実を前に、どうも気の乗らない日々を送っていた。しかしある日の授業中、講師の方がこのような事を言い出した。

「むしろ今年受からなくて良かったと思おう。」

最初は意味がわからなかったが、その方の次の言葉で自分は目から鱗が出る気分となった。

「今年はコロナ禍で行動制限が目立ったけど、来年は緩和されて今より楽しめる年になるよ。」

「今は力を付けて今年の大学生より楽しい大学生活を勝ち取ろう。」

その後、自分は努力する気力が湧いてきた事に気づいた。今自分が置かれた状況がどんなに辛くても、状況の「良いところ」を見つければ、心は少しずつ前向きになっていくのだ。

己を前向きにする考え方のお陰で、自分は共通テストで成功を納め難関私大に合格する事ができた。本命の国公立ではないのが悔やまれるが、自分はこれがターニングポイントだと捉えるようにしている。何故ならその考え方が、これから生きる力になるからだ。